

## 「国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部・研究科2年橋本亜美

まず、私がこのプログラムを通じて達成した学習成果について報告します。私が今回のプログラムに参加した一番の目的は、現在台湾でたくさんの議論がなされている同性婚合法化とプラスチックストローの廃止の方針に対する、現地大学生たちの意見を聞くことでした。ありがたいことに京都大学と台湾大学の学生よ交流会があったり、SAの方々と休日に外出する機会があり、生の声を聞くことができました。同性婚合法化に関して、やはり年代が上がるにつれて反対派が多くなるといった意見が多く、日本と同じだと思いました。しかし、日本と違うのはLGBTQの人々が公共の場で堂々としている姿をよく見るという点でした。日本ではゲイカップルが手を繋いでいるのを見るのはあり得ないと言ってもいいと伝えると、心から驚いていました。どの学生に質問を投げかけても自分なりの意見を伝えてくれ、日本の学生との間のLGBTQに対する意識の差を感じました。プラスチックストロー廃止については、文化講義をしてくださった教授の方々や学生に尋ねると、廃止することで起こりうるリスク対策をしていないため不可能であろうとの声をたくさん聞きました。やはり、まだ机上の空論というイメージが残りました。さらに、この3週間で最も成果が出たと思う点はやはり中国語の上達です。わたしは中国語学習歴は0に近いものの、自分なりに勉強したり、授業で習った文法を用いてその日の夜に夜市で話したり、と努力をしました。また、SAの人たちともなるべく中国語で話してもらおうよう願いました。そのおかげで3週間で注文をしたり、駅の表示が分かったり、成長を実感できました。言語学習における、留学の重要性を感じました。現地で体験した大きなことの一つとして、わたしは自分の研究分野である農業、食品の観点から述べたいと思います。まず日本との大きな違いに亜熱帯気候があります。夜市に行けば、日本では見ることができないたくさんの熱帯フルーツや作物が売られていました。将来、熱帯農業に携わろうと思っているため、なかなか食べられるものではないアテモアやシャカトウ、パパイヤなどを新鮮なまま手に入れられました。また、初めて見る花が多く、特に木綿花の生態に興味を持ちました。今後の研究対象の一つにその花を入れたいと思っています。さらに、毎日スーパーマーケットに行くようにし、日本との生肉や鮮魚、野菜の売り方やパッケージングの仕方の違いがないか、日本で見たことのない商品はないか、を調べていました。1番面白いと思ったのは、卵白のみが生クリームのパックのようなものに入れて売られていたことです。卵白のみを使う台湾料理が思いつかないため用途が定まりませんが、どのように生活を便利にしているのだろうと思いました。最後にプログラムに含まれていた文化の講義について。講義では自然環境や生活習慣だけでなく、歴史や建築物の意味など深くまで教えていただきました。往々にして台湾人は親日であると言われるますが、その理由、また現在の実態についてを現地の学生や留学中の日本人の方にお聞きし、台湾の方々への偏った認識を改めることができました。このプログラムが人生初の留学でしたが、この3週間で、将来の研究対象としたものを見つけたり、意欲を持って暮らせば3週間でも語学能力が上がるということに気づき、将来の研究に役立てたいと思いました。